資料1

第3回第6次太子町総合計画審議会での主な意見と対応方針

1. 審議会での意見

項目	主な意見	対応方針
1. ワークショップ結果について		
ワークショップでの意見に対する感想	住民の声（買い物する場所が少ない、遊べるところが少ない等）を実現しようとすると、総計、もしくは都市計画マスタープランの土地利用の方針の壁にぶつかることになる。	以下の「市街化区域や用途地域の見直しに関する意見」に対する「対応方針」参照。
	中学生ワークショップの結果を見ると、一番上に「二上山」がきている。10年後20年後にまちの様子は変わるかもしれないが、二上山は姿を残している。太子町のシンボル的な存在と言える。	歴史・文化を大切に守り、活かしていきたいという思いは、基本理念の中で表現したい。
	「舟形だんじり」など、太子町には「珍しい」貴重なものが存在しており、後世に残していかなければならないという認識を町民が持つ必要がある。	
2. まちづくりの課題と方向性（案）について		
全体的な意見	人口減少は、全国的に人が減っているという人口減少と、転出により人が減っているという2種類がある。それを理解した上で、総合計画を作成すべきだ。	基本理念の文章の現状認識の中で、全国的な人口減少と、地域間競争が激化する中での人口の流出を意識した書きぶりにしました。
	第5次総合計画の積み残しを意識すべき。第5次総合計画の評価で、△や×印が付いているところを、第6次総合計画でどう扱っていくかが重要になる。	現行計画の積み残しについては、関係各課で検討してもらっているところであり、今後の基本計画の検討の際に提示していきたい。
基本理念に対する意見	基本理念のキャッチフレーズは、今回の1度で決めてしまうのではなく、もう少し検討してはどうか。	庁内で議論し、キャッチフレーズをいくつか検討してみたので、ご意見をいただきたい。
基本目標に対する意見	町会未加入者の加入への促進を図ってもらいたい。	基本目標の文言を修正・加筆した。 具体的な内容については、基本計画検討の際の再度議論したい。
	全国的な災害に対する危機感を踏まえ、防災的な要素がより強く出るようなものにしたほうがよいのでは。	
	農業の営農環境が厳しくなり、農地を手放す方が増えてきており、太子町が誇る豊かな自然が失われることになりかねない。総合計画には大きく農業のことを掲げていかないといけない。	
	太子町には農地がたくさんあり、子どもたちが農業の大切さを知るために、もっと活用できたらと思う。	
	20 歳前後の方が太子町を出て行くというデータがあるが、一番戦力になる年代の方々が太子町で頑張ってくれることが一番望ましい。そのためには企業誘致をして、よい仕事場を確保することが必要。	

市街化区域や用途地域の見直しに関する意見	太子町は 53 年前の線引きに従ってまちづくりをしている。基本目標に向けて具体的に動かしていける総合計画にしていかないといけない。非農家が所有する農地の問題等について、しっかりと見直しをしないといけない。	総合計画が各種開発の足枷にならないように表現を検討したい。 なお、今後の開発とともに、自然環境を大切したいという住民意見もあるので、基本構想における文言は、「自然環境の保全と開発のバランスを適切に図っていくという」方針で記載したい。 具体的な実現手法については、都市計画マスタープランの検討の中で議論を行います。
	「用途地域の見直し検討」、「規制緩和」、「許認可の簡素化」といった文言をここに盛り込めればと思う	
	農業振興地域の農用地の除外の申請の手続きについては、かなり複雑な手続きになると思う。ただ、近隣の自治体では、農業振興地域の農用地の除外を行っているところがある。	
	開発の話が結構出ているが、自然が豊かであることを住民が大切に感じているので、バランスを踏まえた開発を考えていく必要がある。	
	第5次総計を作るときにも、調整区域や規制の見直しの議論はあったか。	5次総合計画策定時の議論では、特に土地利用についての議論はそれほどされていない。 ただ、これまで人口が増えることを前提に計画を作ってきたが、今後は人口が減ることを前提に計画を策定することが必要で、「開発、開発」というのではなく、ストックの有効活用や適正配置等の観点から総計を作っていくという論調であった。